

おみぞ筋商店街 (小溝筋商店街振興組合)

兵庫県姫路市

商店街を子育て拠点とする事で、 悩むママ達の救世主としてサポート



取組の背景

強味や特性を生かした 地域のニーズの応え方とは

同商店街は通勤・通学路として朝夕の歩行者が多いという強みがありながらも、道幅が狭いことから、イベントが実施しにくいという事情があり対策を求められていた。

そこで、強みを生かしながらも広告宣伝費をかけずに通学・通勤する若者層に気軽にSNS等で発信して貰える「トリックアート」を商店街内に設置(2013年頃)。新聞・テレビ等の大きなメディア効果もあり多くの反響を受けるとともに商店街の活性化に成功した。

そして、さらなる活性化を図るべく、組合内での意見交換や、来街者・顧客との会話を丁寧に蓄積した結果、商店街のある姫路市中心市街地は区画整理事業により人口は増加傾向にあり、就学前の子どもを抱えるママ世代が徒歩圏内で利用可能な一時預かりや情報交換ができる場所が不足しており、これを解消して欲しいというニーズがあることが判明。そこで商店街が主体となり、新住民の交流を促進しながら、地域のにぎわいづくりにも繋がる一時預かり施設の運営を検討することになる。



トリックアートストリート

取組の内容

「子育て」が商店街活性化の カギに

2015年、兵庫県の商店街の空き店舗を利用した「子育てほっとステーション事業」の採択を受け、同年9月に施設をオープン。商店街が主体運営することを前提

とし、保育士免許不要な未就学児対象の「一時預かり」施設としてスタートさせた。その際に、子育てママ達の生の声を聞き、防犯も考慮した結果、事業所を2階に設置することでほっとステーションの名が示すとおり安全安心を目標に掲げることで商店街を子育ての身近な拠点としての認知を広めた。

一時預かりは都度料金支払(1時間800円)での利用の他、商店街内での3,000円以上の買い物や、童話の本の寄付、施設の手伝い等でも利用できる(一時預かり券発行による)仕組みを導入。それにより、商店街の店舗利用や売上向上、住民交流の促進にも効果を生み始めている。また、商店街の若手店主・従業員の子どもについては無料で一時預かりを実施し、商店街内の子育ての両立も支えている。

更に、飲食をOKにすることで、子どもを遊ばせながら、親同士が商店街内で買った物を持ち寄り、情報交換できる場所として、利用者数は現在右肩上がり(1日3~4組が利用/イベント時は20組以上が利用)である。

そして、2017年度からは、小学生対象の取組やイベントも開始。宿題や自習のお手伝いや英会話教室、地元FM局の協力を得てラジオDJ体験等のイベントも実施。小学生に成長してからも施設を利用し、商店街に通い続けて貰える仕掛けづくりを開始した。

他に独自の取組として、親子カメラ教室(まちゼミ講座としても好評となる)、天体観測イベント(集合場所・参加記念写真受取りを商店街に設定し、商店街に集合してもらい、商店街を案内しながら誘導する企画)等、若手を中心にイベントは企画・運営されている。



天体観測イベント

取組の成果

商店街を地域全体のコミュニティの場に

対象年齢を小学生まで広げたことで利用者は年々増加傾向にある。

そして、子育てほっとステーションを商店街利用の入り口とすべく、姫路市の施設を活用したイベントを開催することで、商店街に興味のなかった人にもイベントを通じておみぞ筋商店街の存在、そして子育てほっとステーションの存在を知ってもらい、同施設を含めた商店街を活用してもらう機会にも関与している。

また、子育てほっとステーションのイベントに関しては月5～10件程度の定期開催をしており、更には姫路市の協力を受け、教育委員会を通じて姫路市の各小学校に告知をしてもらうことで、親同士のみならず子ども達の交流の場でもあることの理解を広めている。その結果、親子連れ、子ども同士でのイベントへの参加者も増えており、商店街の来街層も広がり、賑わいが復活しつつある。



商店街の入口

実施体制

施設の広報(周知)方法については設立当初、施設の利用対象は未就学児のみで、周知には、地元小学校やPTAの配布物にチラシを入れて頂いた。理由としては兄弟姉妹のいる家庭向けの周知の他、将来的には、小学校に進学しても利用できる施設を目指したためである。

キーパーソンからのコメント

「暗→明」への転換がカギに

商店街では異例の30歳代での理事長就任もあり、迅速な対応で皆様が「おみぞ筋変わったね」と実感できる成果を求めました。

夫婦二人で様々な商店街を巡って感じたのが「暗→明」への転換であり、「おみぞ筋トリックアートストリート」へと繋がりました。

皆が笑顔でいられる商店街に

この「おみぞ筋商店街」に店舗をOPENした方や働く方がまずは良かったと思ってもらえる環境を整える事が時流を読みながら新たな展開を加えながら継続し、組合員にもご利用者にも笑顔が増えるよう運営しています。

本当にこのように商店街を取り上げて頂けるようになった事が本当に有難く、今までしてきた事が無駄でなかったと喜んでおります。



小溝筋商店街振興組合
理事長 養畑 八基(左)
事務局 養畑 久恵(右)

商店街の概要

JR姫路駅東口から北へ徒歩5分、みゆき通りと並行して南北にのぼる衣料品、生活雑貨を中心とした70余店舗の商店街で1990年に振興組合設立。

その昔、小さな溝が脇にある4mほどの細い道だったことが名前の由来と言われている。また、「子育てほっとステーション」は現在、地域の利用者の人気を博している。そこでは、絵本・おもちゃ等が揃い、おむつ替えベッドやミルク授乳の給湯設備が完備されている。

また、子ども達の一時預かりサービスの他、子育てママの茶会やおみぞ寺子屋といったイベントも随時開催。

- 所在地 兵庫県姫路市呉服町
- 人口 約53万人(姫路市)
- 電話/ 079-222-7300
- FAX/ 079-222-7300

- URL <http://www.omizo.jp/>
- 会員数 72名
- 店舗数 68店舗(小売業34店、飲食業20店、サービス業8店、金融業1店、医療サービス業2店、その他3店)

- 商店街の類型 生活支援型
- 主な客層 主婦、家族連れ(親子)/30歳代、50歳代